

2014 年度 森基金 研究成果報告書
—家族形成の観点から見る地域社会の持続可能性—

政策・メディア研究科 PS 所属
アーバンリノベーション研究
プラットフォームとビジネス
鈴木 綾奈

【研究概要】

日本における家族の営みは、地域、さらには社会の営みと直結してきた。そのため、地域から特に若年女性が都会に流出することは、家族の再生産や地域社会の維持・存続に大きく関わる問題として、その確保にさまざまな対策が練られてきた。本研究では、その潮流の中で、あえて都会から中山間地域に移住をした女性に着目し、地域への入り方や、家族形成のプロセスを、回想法を用いたライフヒストリーの語りをもとに経時的に記述することによって、地域社会の持続性に寄与することを見据えた、家族形成支援のあり方を提示する。

【今学期の成果】

2014 年度においては、研究における最終フィールドワーク調査および、論文の執筆を行った。フィールドワークでは、対象とする長野県川上村、福島県昭和村、岡山県西粟倉村の3地域において、地域に入り込み、都会から村へ移住した女性（計 32 名）に聞き取り調査を行った。3 地域におけるフィールドワーク調査より、それぞれの地域振興策と女性の移住・家族形成へのプロセスを分析し、さらに地域別の女性の家族形成パターンを整理した。以上のことから、地元男性との結婚によって女性を地域に受け入れる旧来の“地域社会嫁受容モデル”と、よそ者の夫婦や世帯をそのまま受け入れ、産業に従事させていく“外来家族需要モデル”の2つのモデルが、中山間地域における地域社会の持続に大きくかかわっていることが見いだせた。

また、修士論文執筆とは別の視点から、地域に移住する若者の現状を知ろうと、新たな取り組みを行っている I ターン者への視察調査を継続的に行っている。昨年度も森基金を利用して長野県木曾町にて行われた地域おこし協力隊女子会へ参加し、地域振興などに取り組んでいる若年女性にヒアリングを行った。今年、岡山県和気町にて地域おこし協力隊制度を利用し、地域活性化のプロジェクトを自ら立ち上げることで大学生のキャリアアップにつながる取り組みをしている株式会社 Founding Base の活動視察を行った。

【修士論文執筆におけるフィールドワーク期間および聞き取り調査について】

- ▶福島県昭和村：2014 年 9 月、11 月
20～70 代までの女性 11 名
- ▶岡山県西粟倉村：2014 年 7 月、9 月、11 月
20～40 代までの女性 10 名

▶長野県川上村：2014年8月、11～12月

20～40代までの女性11名

に、ライフヒストリーをインタビューした。なお、調査対象者だけでなく、現地での生活を通し、様々な人と交流を図るよう意識した。

【株式会社 Founding Base の視察】

▶岡山県和気町：2014年8月

地域おこし協力隊の20代男性2名、団体共同代表にヒアリング